

石川県能登地方七尾方言のゼロ格について

米村雪乃（東京外国語大学大学院生）

1. はじめに

本発表は、石川県能登地方七尾市（図1）で話されている方言において、格助詞を伴わざ文 中であらわれる名詞項（以下、「ゼロ格」）についての予察的な発表である。七尾市で話されている方言にも下位分類が存在するが、現段階では七尾市御襷地区みそきで話されている方言を「七尾方言」と呼ぶ。



図1 七尾市の位置（七尾市ホームページより）

七尾方言は共通語と同様格助詞による格標示を行うこともあるが、主語・目的語は助詞を伴わずに名詞のみで実現されることが多い。本発表では七尾方言の助詞を伴わない名詞項に着目し、1) 自動詞主語(S)・他動詞主語(A)・他動詞目的語(P)の標示のされ方とその区別について（格配列）と、2) 共通語ではニで標示される項における七尾方言のニとゅの現れ方について述べる。これらを踏まえ、主語、目的語、ニ格標示され得る項の3つの項がゅで現れうるが、それぞれの項がどの機能を果たすかが予測可能であることから、主格・対格・与格のほかにゼロ格を立てるなどを提案する。

2. 先行研究

七尾方言の格体系を詳細に述べた論文は管見のかぎり見つからないが、近隣方言である富山市方言の格に関する記述は小西（2016, 2022）に詳しい。小西（2016）では、富山市方言の格として主格の形式に「φ・ガ・ア・ナ」、対格の形式に「φ・オ」、与格の形式に「ニ・φ」を立てこれら3つの格すべてに「φ」を挙げており、機能面に着目した分類がなされているといえる。富山市方言の格成分のゼロ標示について述べた小西（2022: 95）では、富山市方言の格配列の解釈の1案として、「対格型（S・Aが同一、Oが別）。主格にはφ、ガ、対格にはφ・オの変異」があるという解釈のほかに、「中立型（S・A・Oがすべてφ）と対格型（S・Aがガ、Oがオ）が併存」するという「中立格」の解釈を提示している。

本発表では、後者の「中立格」（ゼロ格）の解釈を七尾方言に適用する！。

¹ 角田（2009: 179）でも、「格は形に関するることであることを強調しておく。（中略）又、ゼロ格も格の一種である」と述べられている。

3. 調査の概要

調査は、主に国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」のために作成された格助詞の調査票²を用いた（以下、例文の末尾に「格(ID)」として示している）。このほかに、「基本例文 50 要地方言訳（以下、50 例文）の調査」で収集した例文も参考にしている（以下、例文の末尾に「50 例文(例文番号)」として示している）。50 例文は方言文法研究会の提案する「日本語の基本的な構文、文法形式（助詞・助動詞類）を含む 50 個の共通例文を要地方言に訳出し、概略的な体系を付す」（方言文法研究会 2025 : 75）調査である。他に発表者が作成した調査票も使用した（例文の末尾に記号のないもの）。以下、断りのない限り、グロスは発表者が付した。今回は、以下 3 人（うち 1 人は参考）の調査協力者の方に対して共通語の例文を提示し方言訳してもらう調査を行った。調査は 2025 年 2 月・5 月・6 月・9 月に行っている。

表 1 調査協力者の情報

イニシャル	現在の居住地	生年	年齢	性別
FM	七尾市松本町	1947 年	70 代	男性
KK	七尾市魚町	1949 年	70 代	女性
YM（参考）	金沢市弥生（18 歳まで七尾市、その後金沢市）	1944 年	80 代	女性

4. 七尾方言の格体系

4.1. 概要

七尾方言は、共通語では有形標示（ガ、オ、またはニ）が自然な環境において名詞が助詞を伴わずに用いられる傾向にある。表 2 は共通語での格助詞の分布との対応を示したものである。

表 2 共通語と七尾方言の格助詞の対応

共通語での格助詞	七尾方言での格助詞
ガ	ガ・ア・φ
オ	(オ)・φ
ニ	ニ・φ

4.2. 七尾方言の S、A、P の格標示

4.2.1. 七尾方言における S の標示

七尾方言で S（自動詞の主語）は主格助詞ガ³またはア、もしくはφで示される。ガはやや

² 「下地理則の研究室」<https://www.mshimoji.com/blank-13> にて公開されている（最終閲覧日 2025.9.16）。

³ 主格助詞ガは [ŋa] で実現する。

共通語的な表現で、一般的にはアが接続する。近隣方言である富山市方言の格について記述した先行研究である小西（2016：103）では、「アは単独で音節を成さず、前接名詞句の末尾音により」実現が異なり、「/i/ に後接する場合は前接拍と融合して /Cja/、/ e, u, o / に後接する場合は前接拍と 1 音節を成して /a/ となる」と述べられているが、七尾方言においても同様である⁴。このほかにアが /N/ に後接する場合に「ナ」（アの異形態）が用いられることがある⁵。

【アが接続する例】

(1)	<i>{ hanakoa / hanako }</i>	<i>mado</i>	<i>aketasakai</i>	<i>musi</i>	<i>haittekita</i>
	<i>hanako= { a / φ }</i>	<i>mado</i>	<i>ake-ta=sakai</i>	<i>musi</i>	<i>hair-te=ki-ta</i>
	<i>花子= { NOM / φ }</i>	<i>窓</i>	<i>開ける-PST=CSL</i>	<i>虫</i>	<i>入る-SEQ=来る-PST</i>

「花子が窓を開けたから虫が入ってきた」（50 例文(10)一部改変）

【φの例】

(2)	<i>kabeni</i>	<i>{ tokee / tokeea }</i>	<i>kakattoruyo</i>
	<i>kabe=ni</i>	<i>tokee= { φ / a }</i>	<i>kakar-tor-u=yo</i>
	<i>壁=DAT</i>	<i>時計= { φ / NOM }</i>	<i>かかる-PROG-NPST=SFP</i>

「壁に時計がかかっているよ」（格(2)一部改変）

φの場合、S は動詞に隣接している必要はない。

(3)	<i>{ tokee / tokeea }</i> ⁶	<i>tyanto</i>	<i>kabeni</i>	<i>kakattoruyo</i>
	<i>tokee= { φ / a }</i>	<i>tyanto</i>	<i>kabe=ni</i>	<i>kakar-tor-u=yo</i>
	<i>時計= { φ / NOM }</i>	<i>ちゃんと</i>	<i>壁=DAT</i>	<i>かかる-PROG-NPST=SFP</i>

「時計がちゃんと壁にかかっているよ」（格(2)一部改変）

4.2.2. 七尾方言における A の標示

七尾方言において、A（他動詞文の主語）は、S と同様、格助詞ガ・ア、もしくはφで示される。S 同様、ガで標示される際は共通語的な表現となる。

(4)	<i>{ hanako / hanakoa }</i>	<i>{ gohaN / ?gohaNo }</i>	<i>tabeta</i>
	<i>hanako= { φ / a }</i>	<i>gohaN= { φ / ?o }</i>	<i>taber-ta</i>
	<i>花子= { φ / NOM }</i>	<i>ご飯= { φ / ? ACC }</i>	<i>食べる-PST</i>

「花子がご飯を食べた」

4.2.3. 七尾方言における P の標示

七尾方言において P（他動詞文の目的語）は、格助詞のオかφで示される。原則としてφで示され、有形標示オは共通語的な会話以外ではほとんど聞かれず、容認度も低い。

⁴ 前接拍と融合を起こしているためこれが接語であるかの検証が必要であるが、今後の課題とする。

⁵ 富山方言では /N/ に後接しない環境でも稀に「ナ」が用いられる場合がある（アの異形態ナが析出されたもの）が、七尾方言では用いられない。

⁶ 七尾方言では主格・主題ともにφとアを用いるため、形式上区別がなされない。そのため、この場合の tokee { φ / a } は、主題主語である可能性がある。今回は主題に関する考察が十分に行えなかつたため、以下の例文でも同様の検討を要する場合がある。

(5)	$\{ hanako / hanakoa \}$	$\{ inu / ?inuo \}$	<i>kootoru</i>
	hanako = { ϕ / a }	<u>inu</u> = { $\phi / ?o$ }	<i>kaw-tor-u</i>
	花子 = { ϕ / NOM }	<u>犬</u> = { $\phi / ?\text{ACC}$ }	飼う -PROG-NPST
	「花子が犬を飼っている」		

4.2.4. A と P が格助詞を伴わない場合

先述のとおり、七尾方言では A も P も格助詞を伴ないことがあるため、A と P がどのように区別されているのかが問題となる。調査の結果、A と P の区別には以下のような条件が影響することが判明した。

a. 語順

A は P に先行する。

(6)	$\{ kaatyaN / kaatyaNna \}$	<i>imooto</i>	<i>tukaini</i>	<i>yatta</i>
	kaatyaN = { ϕ / a }	<i>imooto</i>	<i>tukai=ni</i>	<i>yar-ta</i>
	母さん = { ϕ / NOM }	妹	お使い=DAT	やる -PST
	「母さんが妹をお使いにやった」 (50 例文(17)一部改変)			

imooto kaatyaN tukaini yatta (妹が A、母さんが P と解釈される)

b. 有生性

一般的に、有生性の高い項が A となる。

(7)	$\{ hanako / hanakoa \}$	$\{ gohaN / ?gohaNo \}$	<i>tabeta</i>
	hanako = { ϕ / a }	<i>gohaN</i> = { $\phi / ?o$ }	<i>tabe-ta</i>
	花子 = { ϕ / NOM }	ご飯 = { $\phi / ?\text{ACC}$ }	食べる -PST
	「花子がご飯を食べた」		

この場合、目的語が無生物の文であれば語順を変えることも可能である。

(8)	$\{ gohaN / ?gohaNo \}$	$\{ hanako / hanakoa \}$	<i>tabeta</i>
	<i>gohaN</i> = { $\phi / ?o$ }	<i>hanako</i> = { ϕ / a }	<i>tabe-ta</i>
	ご飯 = { $\phi / ?\text{ACC}$ }	花子 = { ϕ / NOM }	食べる -PST
	「ご飯を花子が食べた」		

c. 百科事典的知識や文脈

聞き手にとっていざれが A でいざれが P かが明確である場合には、ともにゼロ格で標示することが可能になる。

(9)	⁷ $\{ hanako / hanakoa \}$	$\{ inu / ?inuo \}$	<i>kattoru</i>
	hanako = { ϕ / a }	<i>inu</i> = { $\phi / ?o$ }	<i>kaw-tor-u</i>
	花子 = { ϕ / NOM }	犬 = { $\phi / ?\text{ACC}$ }	飼う -PROG-NPST
	「花子が犬を飼っている」		

⁷ ただし、話者からはこの文は「**inu hanako kattoru*」とは言いにくい（犬が A、花子が P であるのかと解釈される）というコメントをもらった。これは b. の有生性の条件が関与しているためだと考えられる。

有生性、百科事典的知識・文脈いずれを用いても A か P かの判断が難しい場合には、a.の語順という条件が優先されるが、有標の形式を用いる場合は、一般に A の方を有形標示する。

- (10) { ?inu / inua } { neko / ?nekoo } okkakeru
 inu= { ?φ / a } neko= { φ / ?o } okkake-ru
 犬= { ?φ / NOM } 猫= { φ / ?ACC } 追いかける-NPST
 「犬が猫を追いかける」

ただし、A は P に先行するのが一般的であるため、語順を入れ替えた場合格助詞を用いたとしても文の許容度は下がる。

- (11) ?inu { neko / neko } okkakeru
 inu= φ neko= { φ / a } okkake-ru
 犬= φ 猫= { φ / NOM } 追いかける-NPST
 ? 「犬を猫が追いかける」

4.2.5. S、A、P の格標示に関するまとめ

七尾方言では、S・A の標示にガ・ア・φ を用いることができるが、ガは共通語的な発話に多く、一般的にはアかφ が好まれる。P の標示には、オ・φ を用いることができるが、オはほとんど用いられず、基本的にはφ で標示する。

A と P がそれぞれφ で標示される場合は、a.語順、b.有生性、c.百科事典的知識・文脈が考慮され判断される。解釈があいまいになる場合は一般的に A の方をアで有形標示し、P には変わらずφ が用いられる傾向にある。

すなわち、A と P における格助詞を用いた有形標示とφ の組み合わせは、論理的には 4 通り考えられるが、以下の形式が好まれることになる。

表 3 七尾方言の A と P の格標示

容認度	格配列	A	P	備考
○	中立型	φ	φ	両者の区別が明瞭な場合
○	対格型（有標主格）	ア	φ	両者の区別が困難な場合
?	対格型（有標対格）	φ	オ	
△	対格型（有標主格・対格）	ア	オ	共通語的な発話においてのみ○

上記を踏まえ本発表では、七尾方言の格配列は、典型的には「S、A、P がφ の中立型」と「S、A がア（ガ）、P がφ の対格型」であるとみる⁸。A と P がどちらもφ で実現しても、4.2.4 で見たような条件により解釈が揺れることが無いことを踏まえると、格が形式の問題であるという前提に立ち、φ をゼロ格として認め、記述することが可能であると考える。

⁸ 小西（2022）では、富山市方言の格配列は「S、A、P がφ の中立型」と「S、A がガ、P がオの対格型」であると述べているが、これは情報構造まで含めた考察となっている。本発表では七尾方言の情報構造に関する検討が不十分であるため、富山市方言との比較は行えない。これは今後の課題とする。

4.3. 共通語における与格相当の表現

ここからは、共通語における与格相当の表現について述べる。

七尾方言において、相手、時、受身文の動作主、使役対象等を示す際には与格助詞ニを用いる。「時」の用法を除いて、一般にニに先行する名詞は有生性の高いものになる。これは、有生性の高い名詞ほど主語や目的語として解釈されやすいため、それ以外の項を有標で示すことで主語や目的語でないことを明示していると説明できる。

〈相手〉

(12) <i>kono</i>	<i>hoN</i>	<u>{ tarooni / *taroo }</u>	<i>yakka</i>
	<i>kono</i>	<u>taroo={ ni / * ϕ }</u>	<i>yar-u=ka</i>
この	本	<u>太郎={ DAT / * ϕ }</u>	やる-NPST=SFP

「この本は太郎にやるか」 (50 例文(7)一部改変)

〈時〉

(13) <i>oraN</i>	<u>{ aidani / *aida }</u>	<i>nusuttoni</i>	<i>hairareta</i>
or-aN	<u>aida={ ni / * ϕ }</u>	<i>nusutto=ni</i>	<i>hair-are-ta</i>
いる-NEG.NPST	<u>間={ DAT / * ϕ }</u>	泥棒=DAT	入る-PASS-PST

「いない間に泥棒に入られた」 (50 例文(19)一部改変)

共通語で格助詞ニを伴う用法のうち、七尾方言においては、時間・相手・受動文の動作主・使役文の動作主（グループ A）の用法ではニを必須とし、着点・存在場所（グループ B）はニに加え条件付きでϕが許容され、変化結果・目的（グループ C）ではニとϕの両方が現れる。形式面でいえば、共通語では与格としてまとめられるグループ A～C は七尾方言においては、ϕと与格という異なる格標示を行うといえる。

表4 共通語におけるニの用法と七尾方言での格標示の対応

グループ	用法	共通語	七尾方言
A	時間 相手 受動文の動作主 使役対象	ニ	ニ
B	着点 存在場所	ニ	{ニ / ϕ}※
C	変化結果 目的	ニ	{ϕ / ニ}

※ϕは条件あり

以下は、B グループの用法におけるϕの例である。B グループにおいては、格助詞ニが付与されることも多い。

〈着点〉

(14) taroo	kiNno	<u>{ ie / ieni }</u>	modotta
taroo	kiNno	<u>ie = { ϕ / ni }</u>	modor-ta
太郎	昨日	<u>家 = { ϕ / DAT }</u>	戻る-PST

「太郎は昨日家に戻った」(格(10))

〈存在場所〉

(15) taroo	zutto	<u>{ tookyoo / tookyooni }</u>	oru
taroo	zutto	<u>tookyoo = { ϕ / ni }</u>	or-u
太郎	ずっと	<u>東京 = { ϕ / DAT }</u>	いる-NPST

「太郎はずっと東京にいる」(格(6))

以下は、C グループの例である。C グループは、格助詞ニを付与することも可能だが、通常は ϕ で示す。

〈変化結果〉

(16) yoru	<u>{ zyuuzi / zyuuzini }</u>	nattara	hoyo	nemassi
yoru	<u>zyuuzi = { ϕ / ni }</u>	nar-tara	hoyo	ne-massi
夜	<u>10 時 = { ϕ / DAT }</u>	なる-COND	早く	寝る-IMP

「夜は 10 時になつたら早く寝なさい」(50 例文(5)一部改変)

〈目的〉⁹

(17) tarooto	otooto	<u>{ asobi / asobini }</u>	itta
taroo=to	otooto	<u>asobi = { ϕ / ni }</u>	ik-ta
太郎=ASC	弟	<u>遊び = { ϕ / DAT }</u>	行く-PST

「太郎と弟が遊びに行った」(格 (41))

5. まとめと今後の課題

本発表では、七尾方言の格体系を概観し、ゼロ格 (ϕ) を認める記述が可能かどうかを検証した。本発表で挙げた七尾方言における格体系をまとめると以下のようになる。

表 5 七尾方言における格

七尾方言における格	機能
主格 (ア・ガ)	自動詞文の主語／他動詞文の主語
対格 (オ)	他動詞文の目的語／経路
与格 (ニ)	時間／相手／受動文の動作主／使役文の対象／着点／存在場所
ゼロ格 (ϕ)	自動詞文の主語／他動詞文の主語／他動詞文の目的語／経路／ 変化結果／目的／着点／存在場所

⁹ 小西 (2016:107) で富山市方言では〈目的〉を表す名詞句は ϕ をとれる一方で、動詞 -(i) 形は不可となっているが、七尾方言では可能である。富山市方言同様、名詞もゼロ格を許容する (例:「仕事行く」)。

S、A、P の分布はここまでとろ条件立てで説明することが可能であることから、ゼロ格を立てる記述が可能であると考える。ただしいわゆる与格相当の名詞項についての検証は不十分であることから、今後の課題としては語順・有生性・百科事典的知識・文脈に加えどのような要素がゼロ格の機能を決めうるのか、より詳細な調査が求められる。これは、多くの言語で格標示が必須とされている中で、七尾方言に関してはゼロ格で標示ができる理由を明らかにすることにつながる¹⁰。

加えて、より複雑な文における格標示が課題となる。項の多い文や複文はもちろん、小西（2022）が富山市方言で指摘した二重対格構文についても検討が必要である。二重対格構文は、七尾方言においても存在する。

- (18) *kuruma* *moN* *toosaNni* *doddake* *zikaN* *kakattoraN*
kuruma=φ *moN=φ* *toos-u=ga=ni* *doddake* *zikaN* *kakar-tor-u=gaN*
車=φ *門=φ* *通す-NPST=NLZ=DAT* *どれだけ* *時間* *かかる-PROG-NPST=Q*

「??車を門を通すのに、どれだけ時間がかかっているの。」（小西 2016 より改変）

小西（2022）では、富山市方言においては「車」と「門」を対格とみることも、ゼロ格（小西 2022 でいう中立格）の連続とみることも可能であると指摘しているが、七尾方言でいずれの解釈が適当かについては検討の余地がある。七尾方言における格体系を整理するにあたって、ゼロ格を立てることの意義をさらに明確にしていく必要がある。

【略号リスト】

ACC: accusative (対格) / ASC: associative (共格) / COND: conditional (条件) / CSL: causal (理由) / DAT: dative (与格) / IMP: imperative (命令) / NLZ: nominalizer (名詞化) / NOM: nominative (主格) / NPST: non-past (非過去) / PASS: passive (受動) / PROG: progressive (継続相) / PST: past (過去) / Q: question (疑問) / SEQ: sequential (中止形) / SFP: sentence final particle (終助詞) / -接辞境界 / =接語境界

【参考文献】

- 小西いづみ（2016）『富山県方言の文法』東京: ひつじ書房.
———（2022）「富山市方言における格成分のゼロ標示 二重対格相当構文が可能になることに着目して」『日本語の格表現』91-108. 東京: くろしお出版.
竹内史郎・松丸真大（2022）「本州方言における他動詞文の主語と目的語の区別について—京都市方言と宮城県登米町方言の分析—」『日本語の格表現』65-90. 東京: くろしお出版.
角田太作（2009）『世界の言語と日本語 改訂版』東京: くろしお出版.
七尾市ホームページ（2013）「七尾市の概要」
<https://www.city.nanao.lg.jp/koho/aramashi/profile/gaiyo.html> [2025年5月24日アクセス].
方言文法研究会（2025）「凡例」『全国方言文法辞典資料集（9）活用体系（7）』75-82.

¹⁰ 竹内・松丸（2022）では、京都市方言における格の識別に関する記述がなされている。京都市方言ではASPとともにゼロ格で標示されることが多いが、語順・有生性・格標示のほかに語用論的に文脈から判断しているという説が提案されており、七尾方言でも同様の説をとれる可能性が高い。